



湯本 浩通 先生

### 略歴

1992年 徳島大学歯学部卒業  
1996年 徳島大学大学院歯学研究科博士課程修了  
1996年 徳島大学歯学部附属病院第一保存科助手  
1997年 徳島大学歯学部歯科保存学第一講座助手  
2002年 ポストン大学医学部感染症部門博士研究員（～2005年）  
2005年 徳島大学大学院ヘルスバイオサイエンス研究部歯科保存学分野助手  
2007年 徳島大学大学院ヘルスバイオサイエンス研究部歯科保存学分野助教  
2012年 徳島大学病院歯科・第一保存科講師  
2017年～ 徳島大学大学院医歯薬学研究部歯周歯内治療学分野教授（現在に至る）  
2021年～ 徳島大学病院副院長・歯科担当（現在に至る）

## 歯周病と象牙質知覚過敏症との関連

徳島大学大学院 医歯薬学研究部 歯周歯内治療学分野  
湯本 浩通

象牙質知覚過敏症（Dentin Hypersensitivity）は、象牙質への様々な刺激により誘発される短く鋭い痛み  
の症状に対する病名であり、その不快感による Quality of Life（QOL）の低下への影響も懸念されている。  
その発症には、咬耗や摩耗などの機械的損耗や酸蝕に加えて、Cracked Tooth Syndrome（亀裂歯症候群）や  
非う蝕性歯頸部歯質欠損（Non-Carious Cervical Lesion: NCCL）の関与も指摘されており、発症メカニズム  
としては、動水力学説が有力視されている。有病率は約30～40%とも言われ、若い成人の有病率が高く、加  
齢に伴い減少する傾向にあり、酸性食品の嗜好や咬合・悪習癖などの習慣やライフスタイルの関与も示唆さ  
れている。

診査項目として、象牙質の露出／擦過痛／エア－痛、う蝕・亀裂・Tooth wearの有無による部位の精査、  
痛みの頻度、持続時間や発症からの経過、食生活などの生活習慣、ブラッシング方法などの口腔清掃、咬合  
状態や治療歴としてう蝕処置、ホワイトニング、矯正歯科治療に加えて、歯周治療も挙げられます。すなわち、  
象牙質知覚過敏症は、不適切なブラッシング、不良な口腔衛生状態、過度のスクレーピング/ルートプレー  
ニング、ブラキシズム、加齢等など、歯周病の原因・治療や経過にも強く関連していることから、約60%の歯  
周病患者が象牙質知覚過敏を併発しているという報告もあり、歯周病は、象牙質知覚過敏症の発症から治療  
効果・予後・再発まで関与している。

歯周基本治療での歯肉の腫脹改善による歯肉退縮・根面露出や過度のSRPによるセメント質喪失・象牙質  
露出に加えて、歯周外科治療も象牙質知覚過敏症の発症へと導くため、より低侵襲なフラップ手術、術後の  
歯肉退縮や歯肉弁・歯冠乳頭部の陥没回避などに配慮したフラップデザインを考慮することも重要である。  
また、矯正歯科治療による歯肉退縮と象牙質知覚過敏症を併発する歯根露出に対しては、歯周形成手術の1  
つである結合組織移植術（Connective Tissue Graft）が適応できる。

さらに、歯周病との関連が強くと示唆されている糖尿病患者では、唾液分泌減少が認められる場合も多く、  
また、口腔乾燥に影響を及ぼす薬剤を服用している患者も少なくなく、唾液が象牙質知覚過敏症の発症や症  
状軽減に対する役割が指摘されていることを考えると、これらの患者に対するケアも重要である。

本セミナーでは、象牙質知覚過敏症の成因などに関して歯周病との関連を再確認するとともに、歯周治療  
の術式を応用した治療法に加えて、様々なHome CareやProfessional/Office Treatmentについて整理するこ  
とにより、個々の症例に適した処置の選択の一助になればと思います。